

- 問1 奈良時代の聖武天皇は、飢饉や疫病の流行、政治の混乱といった社会の不安を取り除くため、仏教を深く信仰して国を安定させようと考えました。このような「仏教の力によって国家を守ろうとする思想」を何といいますか。 (2019年 香川県公立入試 類似)
1. 王土王民 2. 神仏習合 3. 本地垂迹 4. 鎮護国家
-
- 問2 平城京跡からは、当時の税の仕組みを知る手がかりとなる「木簡」が多数出土しています。例えば、紀伊国（現在の和歌山県）から塩が納められたことを示す記述が見つっていますが、このような地方の特産品を納める税制度について、その特徴を説明したのとして最も適切なものを選びなさい。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
1. 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務 2. 都で年間10日間働く代わりに、布を納める義務 3. 収穫した稲の約3%を、各国に設置された倉庫に納める義務 4. 九州北部の防衛のために、3年間兵士として派遣される義務
-
- 問3 奈良時代の743年に発令された、新しく開墾した土地を永久に自分のものにすることを認めた法律を何といいますか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
1. 墾田永年私財法 2. 三世一身の法 3. 公地公民制 4. 班田収授法
-
- 問4 大宝律令などの法律に基づき、人々に土地を割り当てて税を納めさせる仕組みや、地方を統治する組織を説明した資料の内容として、正しいものはどれですか。 (2018年 滋賀県公立入試 類似)
1. 豪族が代々所有する私有地を認め、地方の有力者が独自に裁判や軍事を行うことを許可した。 2. 外国との交易を円滑にするための役所を各港に設置し、軍事教練を義務付けることで国防を強化した。 3. 戸籍を作成して人々に口分田を与える班田収授の法を定め、地方を国・郡・里に分けて統治した。 4. 武士を各地方に派遣して土地の管理を行わせ、年貢を米ではなく全て絹や布で納めさせた。
-
- 問5 古代の租税制度について述べた次の説明のうち、全国各地から平城京に集められた「調」の説明として正しいものはどれか。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 九州北部の警備のために、防人として兵役につく。 2. 口分田の面積に応じて、収穫した稲の一部を地方の役所に納める。 3. 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。 4. 都での労働の代わりとして、布を中央政府に納める。
-
- 問6 8世紀の奈良時代、聖武天皇のころを中心として栄えた、遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受けた文化を何と呼びますか。東大寺の正倉院に収められた宝物にペルシアやインドの影響が見られるような、国際色豊かな特色を持つものを選びなさい。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 天平文化 2. 国風文化 3. 弘仁・貞観文化 4. 飛鳥文化
-
- 問7 聖武天皇が東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することを決意した背景には、当時の社会情勢が深く関わっています。その背景として適切な説明を選んでください。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 日本各地でキリスト教が広まり始め、それに対抗するために仏教寺院のネットワークを強化したかったため 2. 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため 3. 大陸との国交を断絶したことで日本独自の文化が衰退し、改めて唐の文化を取り入れる象徴とするため 4. 武士の勢力が増大し、その力を抑えるために仏教を国の最高位の教えとして再編しようとしたため
-
- 問8 聖武天皇が、都に東大寺の大仏を造営したり、全国に国分寺・国分尼寺を設置したりした背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 高山県公立入試 類似)
1. 貴族や僧侶の勢力を抑え、天皇の権力を絶対的なものにするため 2. 律令制度を強化し、法に基づく中央集権体制を完成させるため 3. 唐の進んだ文化を積極的に取り入れ、日本の国際的地位を高めるため 4. 仏教の力で社会の不安を取り除き、国家の安定を図るため
-
- 問9 奈良時代、元明天皇の命により、各国の産物、土地の肥沃さ、地名の由来や古くから伝わる言い伝えなどを記録して提出させた報告書を何といいますか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 古事記 2. 風土記 3. 日本書紀 4. 万葉集
-
- 問10 奈良時代、聖武天皇が都に東大寺を建立し、さらに全国へ国分寺・国分尼寺を建てるよう命じた理由として、当時の背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)
1. 律令制度の基本となる戸籍の作成を、僧侶に管理させる拠点とするため 2. 遣唐使を派遣するための莫大な費用を、各地の寺院から集める仕組みを作るため 3. 伝染病の流行や政治的な混乱などの社会不安を、仏教の教えによって鎮め、国を安定させるため 4. 武士の勢力に対抗するために僧兵を組織し、天皇中心の軍勢力を強化するため
-
- 問11 8世紀頃の讃岐国（現在の香川県）において、地方政治の拠点であった「讃岐国府」のような役所を中心に行われた統治体制の説明として、適切なものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 中央から派遣された郡司が、現地の有力者である国司を指導することで、都の文化や制度を全国に広めた。 2. 各地の有力な豪族が藩主となり、中央政府の干渉を受けることなく独自の法律や税制を用いて領地を統治した。 3. 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。 4. 武士の棟梁が地方ごとに地頭を派遣し、現地の豪族であった郡司に代わって土地の管理や警察権を行使した。
-
- 問12 平城京跡などの遺跡から出土する「木簡」の中には、送り主の氏名や地名のほか、中身の品目（布や海産物など）が詳しく記されたものが多く見られます。このような木簡が「税」に関連して果たしていた役割について、当時の社会背景を踏まえた説明として正しいものはどれですか。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 防人が九州沿岸の警備に赴く際、その身分や出身地を証明し、兵役の免除を受けるための身分証として機能していた。 2. 租として徴収された稲が、各地方の国庫で適正に保管されているかを検査するための証明書として機能していた。 3. 日宋貿易において、日本から輸出する硫黄や刀剣が密貿易品ではないことを示すための許可証として機能していた。 4. 地方の特産品を都へ運ぶ「調」などの荷物に付けられ、どここの国や郡から納められたものかを明確にする荷札として機能していた。
-
- 問13 奈良時代、743年に出された「墾田永年私財法」では、それまでの「三世一身の法」で定められていた期限付きの土地所有ルールが大きく変更されました。この法令によって、新しく開墾した土地の所有権はどのような形で認められるようになったか、最も適切なものを選びなさい。 (2025年 大阪府公立入試 類似)
1. 子、孫、ひ孫の三代に限って認められる 2. 開墾した本人の一代に限って認められる 3. 期限を定めず、永久に私有することが認められる 4. 開墾から一定期間が経過した後は、再び国に返還される

答え合わせ・解説

問1	答え 4 鎮護国家	8世紀の日本では、天然痘の流行や凶作、貴族間の政争といった深刻な社会不安が続いていました。聖武天皇は、仏の慈悲や加護を政治に取り入れることで、こうした災いから国を救い、安泰に導こうと考えました。この思想を背景に、全国への国分寺・国分尼寺の建立や、東大寺の大仏造立が進められました。
問2	答え 1 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務	木簡は荷札として利用されており、そこには「調」として納められた特産品の内容や送り主の住所が記されていました。調は、地方の特産品を都の政府に納める義務ですが、運搬にかかる費用や食費もすべて納税者の自己負担であったため、農民の生活を圧迫する大きな要因となりました。
問3	答え 1 墾田永年私財法	人口の増加にともなう口分田の不足を解消するため、政府は当初、723年に「三世一身の法」を出して三代に限り私有を認めましたが、期限が来ると土地が国に没収されるため、農民の開墾意欲は続きませんでした。そこで743年、開墾した土地を永年（永久）に私有することを認めるこの法律が制定されました。この制度により公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院が広大な私有地である「荘園」を形成するきっかけとなりました。
問4	答え 3 戸籍を作成して人々に口分田を与える班田収授の法を定め、地方を国・郡・里に分けて統治した。	律令制度のもとでは、全ての土地と人民は国家のものとする「公地公民」の原則がとられました。人々の情報を把握するために戸籍が作られ、それに基づいて「班田収授の法」により口分田が分け与えられました。また、全国を「国・郡・里」という行政区分に分けることで、中央から地方まで支配が及ぶ仕組みが構築されました。
問5	答え 3 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。	律令制度下の「調」は、地方ごとの特産物を都に届ける義務を指します。都の役人の給与や儀式の費用、国家の資材として利用されました。選択肢にある「稲の一部を納める」のは租、「労役の代わりに布」は庸、「九州北部の警備」は防人をそれぞれ指しており、制度ごとに納める品目や場所、目的が明確に区分されていました。
問6	答え 1 天平文化	奈良時代の聖武天皇の時期、遣唐使の派遣によって唐の進んだ文化や技術、さらにはシルクロードを経由して西アジアやインドの文物が日本に流入しました。正倉院に遺されている「螺鈿紫檀五絃琵琶」などの宝物は、当時の日本がいかに国際的なネットワークの中にあったかを示しています。
問7	答え 2 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため	聖武天皇の治世では、長屋王の変などの激しい権力争いに加え、天然痘の大流行による人口減少や飢饉が発生し、社会は非常に不安定でした。こうした深刻な状況を打破し、人々の心をまとめ、国家を再建する拠り所として、鎮護国家の思想に基づく大仏造立や天平文化の振興が行われました。
問8	答え 4 仏教の力で社会の不安を取り除き、国家の安定を図るため	聖武天皇の治世は、疫病の蔓延や深刻な凶作、さらに貴族間の対立による反乱が重なった時期でした。こうした困難な状況に対し、単なる政治的解決だけでなく、宗教的な権威を活用して人々の心を安定させ、国の混乱を鎮めようとする「鎮護国家」の考え方が採用されました。東大寺は全国の国分寺の中心としての役割を担い、大仏はその象徴として造営されました。
問9	答え 2 風土記	713年に出された編纂の命に基づき、郷土の地理や産物、言い伝えなどを国ごとにまとめた地誌です。律令国家としての地方支配を強めるため、中央政府が各国の状況を詳細に把握する目的で作られました。現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数カ国の写本が伝わっています。
問10	答え 3 伝染病の流行や政治的な混乱などの社会不安を、仏教の教えによって鎮め、国を安定させるため	聖武天皇が治めていた時期、社会では天然痘などの疫病の流行、飢饉、さらには政治的な反乱などが相次ぎ、民衆や朝廷は大きな不安の中にありました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの災いから国を守ろうとする「鎮護国家（ちんごこっか）」の思想を掲げ、その象徴として東大寺の建立や大仏造立を推進しました。
問11	答え 3 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。	国府は、都から派遣された国司が執務を行う地方行政の中心地でした。ここで国司は、現地の豪族から選ばれた郡司を指導し、律令に基づいた統治を行いました。郡司は代々その土地を治めてきた豪族が任命されたため、土地の事情に精通しており、国司はその影響力を利用して徴税などを効率的に進めました。守護や地頭が設置されるのは後の鎌倉時代であり、藩主による統治は江戸時代のことであるため、律令時代の国司・郡司の仕組みとは異なります。
問12	答え 4 地方の特産品を都へ運ぶ「調」などの荷物に付けられ、どこの国や郡から納められたものを明確にする荷札として機能していた。	奈良時代の税制である租・庸・調のうち、庸や調は地方の特産品を都まで運ぶ必要がありました。全国から膨大な物資が都に集まるため、管理のために「どこの誰が納めたか」を記した木簡が荷札として取り付けられました。この仕組みにより、中央政府は徴税の状況を正確に把握することができました。選択肢にある「勘合（割符）」などの貿易証明書とは、使われた時代も目的も異なります。
問13	答え 3 期限を定めず、永久に私有することが認められる	奈良時代中期、人口の増加にともなう食糧不足を解消するため、政府は土地の開墾を奨励しました。723年の「三世一身の法」では、開墾した土地の私有を三代に限定して認めていましたが、期限が近づくと人々が土地を放置する問題が発生しました。そこで743年に「墾田永年私財法」を制定し、開墾地の所有権を期限なしで「永久」に認めることにしました。これにより開墾が促進されましたが、一方で貴族や寺社が広大な私有地（初期荘園）を形成するきっかけとなり、公地公民の原則が崩れる要因となりました。